

---

# 疑似恋愛～その先にあるもの～

南チャン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

疑似恋愛〜その先にあるもの〜

### 【Nコード】

N9807B

### 【作者名】

南チヤン

### 【あらすじ】

疑似恋愛のステージ、クラブのキャストと一人の男が出逢い本当の恋愛に変わっていく心の移り変わりそして結末は？

## 第一章

御疲れ様です！この日もリヨウは仕事を終え会社を出てを歩いていた。

携帯の着信音が鳴った！

「まったく、もう仕事は終わってるのに！」

取引先からの電話だった

「はい」

「菊田ですが、仕事終わったかな？」

電話の主は取引先の部長でリヨウが信頼を寄せる人間なのだ。

「どうもー！何かありました？」

電話の先が何だか騒々しい、何処かお店の中みたいだ

「お前さ、毎日会社と家の往復でつまらないだろ？今飲みに来ているからお前も顔出せ」

リヨウも菊田の誘いだと断る理由も無い

「判りました、何処の店に行けば良いですか？」リヨウはいつもの居酒屋だと思っていた

「おうつ！そうこなくちゃなー！場所はアーケードにあるCLUB MIX だから、早く来いよ！」

その言葉を最後に電話を切った。

CLUB MIX と言えばこの街では最大級のキャバクラだった、リヨウは初めてその店に入る事にまんざらではなかった。

「いらつしやいませ、何名様でしょうか？」

礼儀正しいボーイが声を掛けた。

「あのー、菊田さんと待ち合わせなんですけど、来ていますよね？」するとボーイもすぐに答えた

「菊田さんならいらつしやいますよ、どうぞこちらに」

ボーイに案内されて中へと入っていった。さすがに最大級のキャバクラだけあって客席も全て埋まっている。二人だけの世界を演じて

るキャスト、嫌気丸出してタバコを吹かすキャスト、男にベツタリで甘えているキャストを横目に奥のテーブルに進んで行くと、楽しそうに談笑する菊田とキャストが見えた

「おー来たな！おせーぞまた延長になつちまつたじゃねーか！」

鼻から菊田は延長するきでリヨウを呼んだのを分かつていた。

「綺麗な女性ですね！羨ましーっすね」

すると、そのキャストは

「マイコです！初めまして、何作ります？」

と話掛けた。リヨウはバーボンを頼むと周りを見渡して菊田に言った

「こんな店に通つてたんですね！ビックリですよーキャストさんも綺麗な女性ばかりだし！」

菊田は笑いながら言った

「マイコはダメだぞ！他の娘にしろ！」

つと笑いながら乾杯をしていると

「失礼します」

ボックスの入口付近に一人のキャストが立っていた、白のドレスにイヤミのない程度の茶髪に透き通った白い肌の今時風なキャストだった。

しかし、リヨウは今時の娘があまり好きではなかった、横に腰掛けるとポーチの中から名刺を取り出すとリヨウに差し出した

「玲華です、初めましてよろしく」

リヨウを見て微笑んだ！目がパツチリした綺麗と言うより可愛いキャストだった、しばらく話をしていると菊田が割り込んできた。

「俺は一人ぼつちなのお前ら相手しろよ！」

どうやらマイコは他の客のテーブルに呼ばれみたいだ。更に菊田は話し続けていたリヨウはそんな菊田に少し不満な顔で言った

「俺の所に付いた娘なんだから邪魔しないで〜」と言った。

とっさに玲華もリヨウに申し訳なさそうに

「ごめんなさい」っとコクリとお辞儀してみせたが目が合った途端どちらからともなく笑いが出ていた

菊田のお気に入りマイコもテーブルに戻り直ぐに二人の世界に入っていたその光景を見たリヨウは玲華に言った

「あれだけ会話に入っていたきたのにマイコちゃんが戻ったらこれだものな」

それを聞いた玲華はリヨウの顔をただ見て笑っているだけだった。

そこにボーイがスツと現れ

「玲華さん」つと声を掛けた、リヨウはキョトンとして玲華に視線をもどすと

「ごめんなさい、時間みたいだから」と言い飲みかけのグラスを下げていた、リヨウもフリーでの入店だったので仕方ないと玲華に言った。玲華は慌てて自分が渡した名刺の裏にアドレスを書きリヨウに渡し言った

「良かったらメール下さい！今日は楽しかったです楽しんでいってください」と一礼して去っていった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9807b/>

---

疑似恋愛～その先にあるもの～

2010年12月10日07時13分発行